

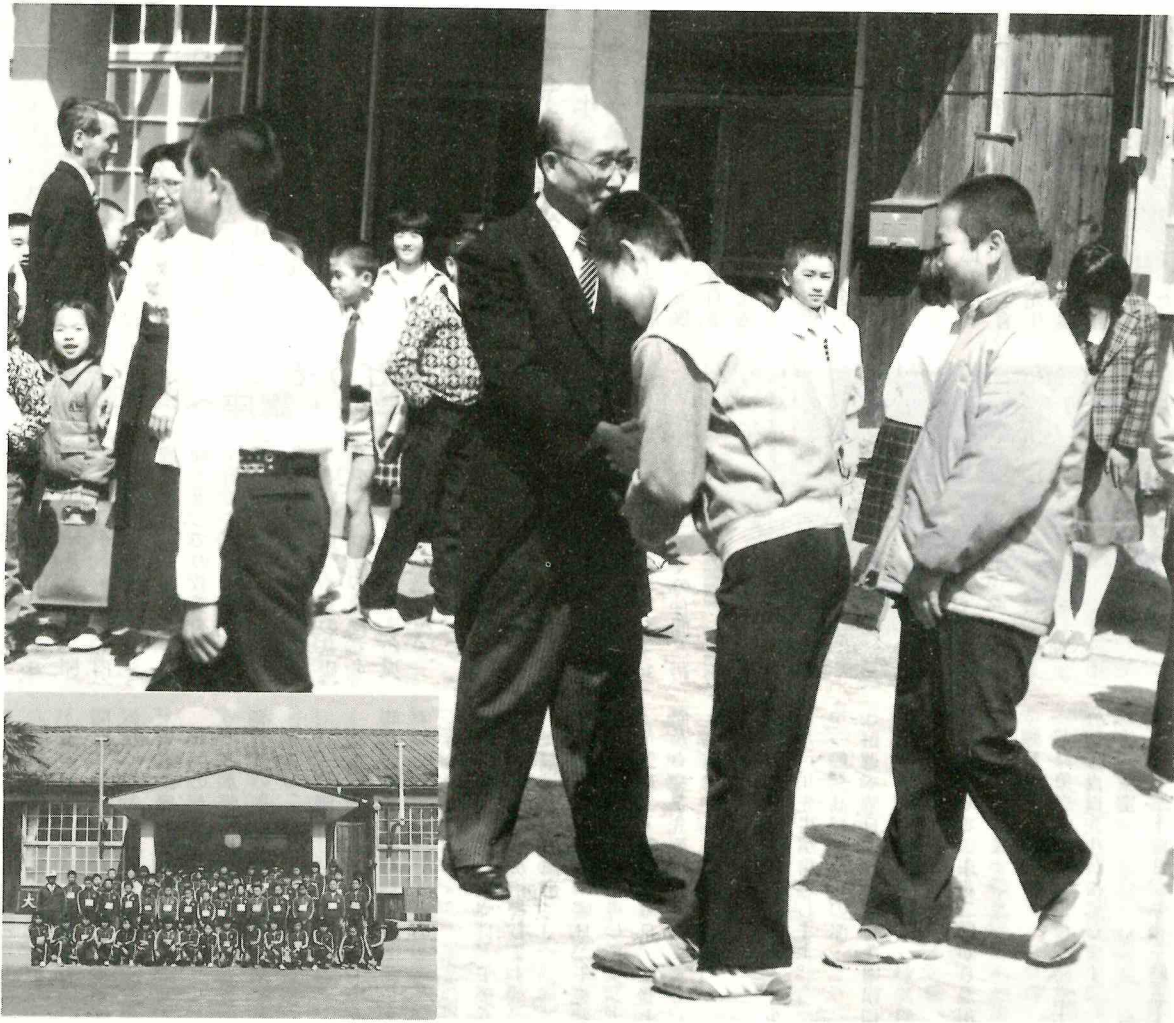
館報

おおくま

おもな内容

- 2面……合同閉講式、公民館訪問
- 3面……清流、文化講演会
- 4面……スポーツ傷害保険
- 5面……婦人学級
- 6面……文芸
- 7・8面……みんなの広場

発行編集 大熊町公民館
印刷所 新栄社写真美術印刷機



旧校舎で 最後の卒業式

明治二十八年に開校され
児童の教育の場として、
親しまれてきた大野小学校
旧校舎での五十六年度卒業
生八十一名の卒業式が二十
三日行われた。

どの顔も中学生としての希
望と期待に、みちあふれて
そして

仰げば尊しわが師の恩
教えの庭にもはやいくとせ
思えばいととしこのとし月
いまこそ別れめいささらば

この校舎での最後の卒業式
何か例年と変った緊張した
卒業式であった。

卒業生よ、中学校生活も悔
のない日々を

そして在校生よ、大野小の
伝統を新校舎に引継ぎ

より一層勉強に体育に励ま
れることを願いたします。

(写真は、大野小 旧校舎
での最後の卒業生)。

高齢者大学 婦人学級 若葉学級 合同閉講式

公民館の高令者大学、婦人学級、若葉学級合同閉講式を、去る二月二十五日午前十一時から農村環境改善センターで開き、一年間の活動をほめたたえ会いながら、五十七年度の発展を誓い合った。式には、各学級に学ぶ人二百名が参加、君が代斉唱のあと、高令者大学生にだけ遠藤町長から修了書、十九名の大学生に皆勤賞が渡された。続いて町長、教育長が、「一年間、ご苦労さまでした。これからも豊かな知性と教養を身につけて、明るい地域社会づくりに活躍して下さい」と各受講生を激励した。



各学級合同閉講式

公民館訪問 に学ぶ

高令者大学生

市町村社会教育の振興を図ることをねらいとした、公民館訪問巡回指導は、去る一月二十二日午前九時三十分から遠藤町長ほか多数の関係者が出席され、相双教育事務所、社会教育主事佐藤義光先生を招いて有意義に行われた。

当日は、大熊町高令者大学生約百二十五名が出席し、「趣味を生かそう」と言う課題で「山を愛す」坂本甫、「長寿と健康」根本馨、「自分の健康は自分で」河西かつ、「私の余生感」橋本鉄治郎の四名が事例を紹介し、最後に相双教育事務所社会教育主事佐藤義光先生からまとめの指導をいただき、参加者達は、自分の行為について自信と誇りをもって自ら主体的に生きる姿勢の大切さを深めていた。

あなたもどうぞ 学級・講座へ

公民館では、町民の皆さんの学習要望にこたえるべく、各種の学級・講座を開設しているが、新年度も内容を豊富にして開講します。

・婦人学級
婦人としての教養を高める学習です。対象は一般家庭婦人です。

・若葉学級
明るい家庭づくりの基礎知識を身につける学習です。対象は若夫婦及び乳幼児をもつ母親です。

・青年学級
若人が集い、研修やレク活動を通し、多くの仲間と人間関係を身につけよう。二十五才までの青年男女ならだれでも入れます。

・高令者大学
町内の多くの仲間と語



公民館訪問に学ぶ高令者大学生

らい楽しい日々を送ろう。対象は六十五才以上の高令者です。

・茶道講座(華道:小原流も同時開催) 毎月三回木曜日、午後三時から小峰先生が指導します。

・華道講座(龍生派)

・夜間の部
毎週水曜日、午前十時から古小高先生の指導で美と芸術が楽しめます。

・詩吟講座
毎月第一・第三火曜日、午後六時から寺門先生が指導します。

・民謡講座(二講座)
毎週第一・第三木曜日、午後七時から半谷先生が指導します。

・書道講座
成人の部
毎週金曜日、午後六時三十分から井戸川先生が指導します。

一般、高、中学生の部
毎週木曜日、午後六時から泉田先生が指導します。

小学生の部
毎週土曜日、午後二時から及川先生が指導します。

・短歌教室
毎月第二土曜日、午後一時三十分から青田先生が指導します。

・俳句教室
毎月第三土曜日、午後一時三十

分から猪狩先生が指導します。

・珠算教室

毎週月、木曜日、午後二時から山田先生が指導します。

・手あみ教室

・夜間の部

毎週火曜日、午前九時三十分から佐光先生が指導します。

・夜間の部

毎週火曜日、午前六時三十分から夜間と同じ内容で開講します。

・手話教室

毎週金曜日、午後七時から嶋貫先生が指導します。(六か月間)

・コーラス教室

毎月第一、第三、木曜日、午後七時から九時まで、開設します。

・舞踊教室

毎週火曜日、午後六時三十分から花柳寿桃翻先生が指導します。

・なかよし教室

対象者は町内の五、六年生

・料理教室

すぐに役立つ家庭のメニューです。月一〜二回の実習で町民の方ならだれでも入れます。講師には普及所の先生が当ります。

・親子読書会

親と子の読書活動です。十名以上のグループをつくって申込み下さい。毎月楽しく、面白い本をお届けします。

受講申込み

受講希望者は、住所・氏名・所属学級・講座名を四月十五日まで大熊町公民館へお知らせ下さい。

文化講演会開く

豊かな郷土づくりを求めて集う



好評を得た文化講演会 (講師は高松圭吉先生)

大熊町剣道スポーツ少年団 剣道大会に参加

社会教育活動の一環として、去

る三月七日富岡ロータリーク

ラブ主催の第五回少年剣道錬成大

会が富岡一中体育館で開催された。

この大会は日頃剣道を習ってい

る相双地区の小学三年生から中学

三年生の相互親善と日頃の成果を

競うために開かれ、大熊町からも

二十五名の選手が参加した。

小学三年 国近嘉章 今井剛

猪狩有弘 山本孝治

小学四年 柳田謙

林崎一敏 石田清志

田熊清貴 高瀬悟

梅田康二 伊藤潤哉

小学五年 木田登志雄 川木敏行



完成まじかの大野小学校全景

- 柳田淳 渡辺博志
- 鎌田雅弘
- 小学六年 木田裕利 高橋順子
- 中学一〜三年 石井義幸 広島孝治
- 鎌田恭行

清流

私はときどき、つかれた農作業の手を休め現実の社会はどうなっているのだろうかと考え、事がある人間が経済的なゆとりをもち、みずからの生活をふり返る余裕をもった時、そこに意識する事は、もっとも根本的な問題で、人間としてのしあわせ生きがいという事ではないかと思ふ。換言すれば人間性の回復人間としての価値ある生活それは精神的に充実した生活であり、



よりよき社会づくりへ

大熊町農業委員長

吉岡 晃

まず強調したいことは、ともすればおろそかになりがちの人間と人間とのふれあい、思いやり、又、助け合いの美しい心を大切にすることである通り、遠くの親

せきより近くの他人と互いに心をふれ合い、真実のつき合いであつたように思う、時代の流れと共に、あるいは生活環境の変化と共に、

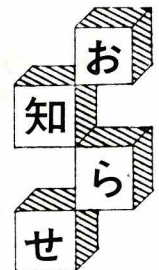
ために、まず考えたいことは生涯教育であり、勉強によつていっそう心の充実をはかると共に心ゆたかな人間性を育て、生活環境のより充実と共に、うるおいある社会づくりに積極的に協力すべきではないでしょうか。



刀剣・銃砲を お持ちの方は登録を

刀剣類を発見したときは、もよりの警察署に届出て、所持の手続をとってください。譲り受けたり相続したときは二十日以内に所有者変更の手続を県教育庁文化課にとってください。また登録証をなくしたときも同様です。なお昭和五十七年度の登録審査会は次の日程で行われますのでどの会場でもよい、早めに登録を受けてください。

- 昭和五十七年
- 五月二十七日(木) 会津若松市、県合同庁舎
- 六月二十四日(木) いわき市、県合同庁舎
- 七月二十二日(木) 福島市、県庁、文化課
- 九月二十二日(木) 会津若松市、県合同庁舎
- 十二月十六日(木) 原町市、県合同庁舎
- 昭和五十八年
- 一月二十七日(木) 郡山市、県合同庁舎
- 二月二十四日(木) 福島市、県庁、文化課



三月で期間が切れます

スポーツ障害保険

職場やグループでのスポーツ活動は、年を追うごとに盛んになり、反面スポーツ活動中の事故も激増しています。このようなスポーツ事故を補償することにより、安心してスポーツを楽しめるようにしたのが、スポーツ安全協会傷害保険制度であります。公民館では次によりスポーツ傷害保険への加入受付を開始いたします。

なお、これまで加入された保険は三月三十一日で期間が切れますので、スポーツを愛好する団体、グループ等は、ぜひ新規加入をお勧めします。

◆この保険に加入できる団体

スポーツ団体、および社会教育関係団体のうち、指導者を置き、十名以上の常時明確に把握されている団員で構成されている団体を対象とする。

◆保険の種類

第一種

- A 中学生以下の子供および盲学校、聾学校、養護学校の生徒により構成されている団体。
- B スポーツ活動以外の活動(文化活動、奉仕活動、軽スポーツ等)を行なう団体。
- C 地域住民により構成されたアマチュアスポーツを行なう団体。例えばママさんバレーク

第二種

- A 山岳登山、ボブスレー、グライダー操縦等。
- B レスリング、ボクシング、相撲、空手、スキー、サッカー、硬式野球、柔道等。
- C 剣道、卓球、庭球、水泳、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、陸上競技、ソフボール、ゴルフ等。

◆保険料および保険金額

被保険者(団員)一名につき左記の通りです。

区分	保険料(年間)	保 険 金 額		
		死亡・後遺障害保険金	入院保険金	通院日院金額
第1種	A	1,200 万円	1,500 円	1,000 円
	B			
	C			
第2種	A	1,200 万円	1,500 円	1,000 円
	B			
	C			

昭和五十七年度よりS型(保険料、保険金額が半額)を廃止しましたのでS型の加入はできません。

◆この保険で対象となる事故

- ①被保険者の所属する団体の管理下における活動中の傷害。
- ②団体が指定する集合、解散場所と被保険者の住所との通常の経路往復中の傷害。

◆支払保険金の種類および額

- ①死亡保険金…被害の日から一八〇日以内にその傷害がもつて死亡したとき…一〇〇%
- ②後遺障害保険金…被害の日から一八〇日以内にその傷害がもつて後遺障害が生じたとき…程度により三〇〜一〇〇%
- ③医療保険金…医師の治療を受け、平常の生活または業務ができるようになるまでの間、治療日数一日につき(別表による)を支払う。

◆保険期間

加入手続を完了した日の翌日午前〇時から、その年度の三月三十一日午後十二時まで。

◆加入期間

只今受付中です。おそくとも七月三十一日までは手続を完了して下さい。

なお、用紙は公民館に準備してあります。加入手続には団員名簿(年令記入)および団体責任者の印鑑が必要となります。詳細については公民館へ訪ねてください。

一年の反省

婦人学級長 千葉 幸子

生きることは学ぶことと申されます。まさに現在の高令者大学の盛況ぶりに驚いております。閉講式には、二百人分の昼食を用意して差しあげましたが、昔働くことのみで夢中でした。過去に出来なかつたことを取り戻そうとしていた姿に驚かされた。私達学級の目標は、家庭婦人・又社会人として果すべき役割について認識を高め、目まぐるしく変わる社会での生き方、考え方を身につけるといふことでした。時代にそつた感覚と教養を身につけたいものと、学習に励んでいるところで。この学習が有形、無形、

自分自身の為、家の為、地域の為になつてゐることがあれば此の上ない喜びであり、又私達の役割とも思ひます。しあわせも自分自身で作りあげるものですから、これからは、再び戻ることの出来な人生のひとこま、ひとこまに楽しい思い出が残るようにこれからも学んでゆきたいと思ひます。頼りがいのない学級長として一年間務めさせていただき、その間、公民館・関係者の方々、学級生の皆様には、陰に陽に励ましていただきました。有難うございました。



婦人学級生の調理

あいさつは
まず家庭から



- ◎おはようございます
- ◎おやすみなさい
- ◎ありがとう

かしい消費者となる ために食品添加物の知識

婦人会長 木幡 キサ

八年間に亘りかしい消費者としての学習活動を続けて来ました。その間加工食品、クリーニングの自主規制について、燐を含まぬ粉石けん、夜具類の選び方、染料、商品の品質表示取扱の注意、訪問販売、解約の知識、内容証明の書き方、生鮮食品の見分け方、調味料の製造所見学等、安全で、良い品をより易く会員相互のボランティアにより計画的な共同購入へと実践して参りました。

昨年は消エネ学習と共に、その実践ぶりを福島テレビで県内に紹介されました。物の豊かさから心の豊かさ求めて計画性のある行動にと現代の消費者像も大きく変わりつつあるとも云われます。

昨年十一月には行政にお世話になり町内の各婦人団体が集い県の移動生活センターを迎え、食品添加物について学び成人病と塩分との関係や、二十日ネズミに着色剤を継続して、与えたものと与えないものとを比較した映画を見せて頂きました。動物の成育状況は、どうでしょう驚きました。片方は萎縮して、毛は光沢が全然なく大きさは与えない方の半分というみじめな成育ぶりでした。講師の先生の話によると現在食品添加物は

食品衛生法で許可されているものは三百三十六種類もあり次の四つの条件が叶えられるよう使われているとのことでした。

一、うまい、二、安い、三、栄養がある、四、安全である。家庭の中では私達婦人は、家族の健康管理者としての責任があるわけですから、出来るだけ新鮮な手づくりの食生活をするのが大切で、加工食品はあくまで脇役として、利用するものがよいとの事です。添加物も安全を確保するのにその毒性試験をするのには、多額の経費と時間が必要です。学習することにより上手な食生活を営み、予防医療にもつながり、健康の保持に役立つわけですから、今後消費者学習は大切な役割を果たすことと思えます。

新年度も一人でも多くかしい消費者としての学習に参加され豊かな家庭づくりに進まれますようお願いしております。

♪コーラス教室開講♪

去る一月七日、公民館の新しい教室としてコーラス教室が開講しました。大野和子先生の指導で、歌を愛する者同志が、毎週木曜日の午後七時より公民館に集まり、大熊町いっばいに幸

指導者研修に参加して

下野上三区 武田 栄子

警梯青年の家で行なわれた婦人指導者研修会に参加し、前期・後期ともで三十時間の学習をさせていただきました。その中の一つに山本ナカ先生のお話がありまして、これからは高令化社会になってゆから、その為の心がまえをしつかりもってほしいということでした。社会に出て調和しながら生きる心がけがほしい、そしてより良かった生活はしない。この為には経済的にも精神的にも自立する力を養うことが大切です。又家庭を見てもわかるように、大家族であったものが、核家族とか単身とかになって来ていて、ばらばらな生活をするようになってきている家の中が忙しくなってきたため、心のこもった手料理とは程遠い。手をかけないもの、インスタント食品等が食卓に多く出るようになってきているようだが、婦人としてもっと見直して行くべきではないだろうか。

併句の中に「帰りくる夫(つま) おりおりの心の動き我は知るなり があります。働いて帰る父さんの靴音がする。お母さんの手をつくった料理が待っていると心はずんだ靴音をたてて帰ってくる家庭をつくってほしい等、話しておられた。

今の子供は経済的に恵まれていてるせいか感激もない、関心が薄い、感動することも少ない。本当にこんなことでよいでしょうか、とも言われましたけれど、その通りだと思えます。何と云っても家庭で、姿をもっと表わすことの出来るものから教えてゆくことだと思えました。私達婦人はもっと社会に目を向け、視野をひろげて前進し、(一)に健康、(二)に人柄、(三)四がなく(四)に頭とありますが、このとおりに生きたいものです。目まぐるしくかわる社会に向って前進していきたいと思います。

町民憲章

健康で楽しく働ける 豊かなまちを つくりましょう
みんなで助けあい 明るいまちを つくりましょう
きまりを守り 平和な住みよいまちを つくりましょう
自然を愛し きれいなまちを つくりましょう
進んで学び 香り高い文化のまちを つくりましょう



文芸



詩

太陽

熊町小六年 川木 正子

私より

さきよに起る太陽

一生一見てくれる太陽

私が先に死ぬ

私の孫

私のひ孫より後に死ぬ

太陽になりたいなあ

太陽になりたいなあ

そして

みんなののを見た。

先生のノート

熊町小六年 石田 千秋

黒板は

先生のノート

みんなといっしょに

勉強する。

書いては消し

書いては消し

いつも汗だくになって

働いてくれる。

黒板ともお別れだ

一年間世話になった

黒板

どうもありがとう

短歌

佐藤 祐 禎

人の寿ぐなりはひ得たる子ら三人
うつつを夢と思ふことあり

我が邑に残り少なき薬屋根のこの
冬一つ又消え去りぬ

鎌田 清 衛

祖母の訃に焦る心で車駆る暮るる
峠路しぐれ分けつつ

障害者の手記に涙をこらえつつラ
ジオに近く梨の枝を剪る

渡部 富久子

俳句

川木 裕子

朝明けや一本松に猛れる鵲

滝落つる右も左も紅葉かな

河西 カツ

せゝらぎに日をのせ寒く流れをり

鯉こくの味濃かりけり隙間風

菅野 ミヨ

しぐるゝや甘酒友と味ひて

濡れ縁に憩いて冬の陽ざし浴び

猪井 静枝

葉牡丹の濃紫添い生けにけり

ブルドーザー冷たく置かる月夜かな

中山 安子

若く逝けりかくまで晴れし冬の夜

嫁の座も母の座もなく炬燵の間

高野 昭二

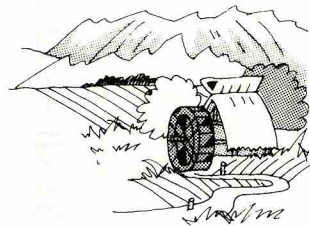
読初と云うに客ありしおりして

松飾りして門閉ざす幼稚園

佐久間信子

貼替へて落書失せぬ新障子

剥製を父持出し療私



くらべいし

むかし

上野上のたばねまつという所に
おじいさんとおばあさんが住ん
でいました。

おじいさんは大きな木を伐っ
たり、炭を焼いたりして暮して
いました。原始林の中は昼でも
暗いほどでしたが、仕事はどん
どんはかどりました。

夏の暑い昼さがりでした。
おじいさんは伐った大きな切株
に腰を下して、ばあさんのつく
ってくれたおにぎりをたべてい
ました。

ところが、山は忽ちくもり、
遠くから雷の音が聞えてきまし
た。おじいさんはこれは大へん
だと思い、大事な道具をせおっ
て野上川の岸までたどりつきま
した。

雷はますますはげしくなり、
いならずまが頭上をおそったその
瞬間おじいさんは倒れてしま
いました。

おばあさんは風呂をたいてお
じいさんの帰りを待っていました
た。雨はやみませんでした。雷も遠の
きました。いくら待ってもおじ
いさんは帰って来ません。

おばあさんは気が気でなく、
おじいさんの山へかけました。
さきほどの雷雨で川は増水して
いました。

おばあさんはやっとの思いで象
の鼻とよばれる所へたどりつきま
した。北側の山が象の鼻のように
川へつき出ている所です。そこか
ら百間ほどの川岸に倒れているお
じいさんをみつけました。

おばあさん声を限りに「おじ
いさん！おじいさん！」と呼びまし
た。川のせせらぎの中におばあさ
んの泣き声がこだまとなって山に
ひびきました。おばあさんはおじ
いさんにすがっていつまでも泣い
ていました。

山の神さまはおじいさんおばあ
さんを大へんあわれに思われ、二
人を石にかえてくれました。

おじいさんはせいが高かったが
少しやせていたので、そのような
石にしました。おばあさんはせ
いが低いが太っていたのでそんな石
にしました。

今国道二八八号線がこの石の近
くを通っています。道行く人はこ
の二つの石をみてよく話します。
どっちが大きなかなと。私は高い
方の石だ。いや僕は太った石だと。
みんなこの石をくらべ石といっ
ています。 文責 松本幸一





ふれあい

剣道スポーツ少年団後援会長

山田 安隆

私が大熊町の土を踏んだのは、昭和四十四年の二月でした。生まれて育ったのが浪江町ですが、十五才で福島県を離れ、それ以後十五年間、他の土地で生活をしてきたのであの時の故郷に帰って来たと言う気持は今でも忘れられません。その当時はまだ独身でもあり、まだ何処に居をかまえるかなど考えることが不可能な状態でした。勤務先の都合で、その後もこれを離れたが昭和五十年長男が、幼稚園に入園すると同時に、居を大熊町に移し私達の犬熊町での生活が始まりました。幼稚園を媒介にして、子供達の付き合いに端を発して、親同志の交際が始まり、顔見知りの方が多くなり、生活にも張合いが出てきました。さらに子供達が大きくなり小学校に行くようになると、行動範囲も広くなり、町の情報もいろいろと集めて来るようになり、同時に町の行事にも参加する機会が多くなり、ここの生活を中心にした思考をしています。今では、多くの知人も出来、他の仮住いをしていた場所では知らなかった生活をエンジョイ

しています。私が剣道に興味を持ったのは、仕事でカリフォルニア州のサンホセ市に行っていた時でした。サンホセ市には日本人が多く、お寺が有り日曜日の午後には剣道の稽古をしていました。又米国人で、剣道とか居合い等を学んでいる人もおり、日本の文化を反対に教えられることもしばしばでした。日本に帰ったら、ぜひ自分でもやって見たいと思っていたのですが、帰国後の勤務地が東海村でその機会もなく四年が過ぎました。長男が小学生になり、大熊町に剣道スポーツ少年団が有る事を知り、早速入団させました。今年で六年目になり、一応形も身についたようです。剣道を通して先生方を始め子供達の父兄とも知り合っている事のでき、私達の大熊町での生活を楽しくしています。子供達にとっては文字どおりここが故郷になるので、人とのふれあいを大切にして、生活の環境を少しでも良くするよう心がけて行きたいと思えます。それが親としての責任ではないでしょうか。

図書あんない

このほど、公民館では子供向きから、成人向きまでの、新刊書約八百冊ほど購入し、図書室に備えてありますので是非一度ご覧になって下さい。最近購入した主なものを紹介します。

◎ペットの飼育事典、◎母と子の絵本、◎あそんじゃう本(十冊)、◎北

の国から前編、後編、◎真実一路
◎野菊の墓 ◎母親 ◎ケンちゃん
はねこのおかあさん ◎友情
◎青年の雁 ◎春の雪 ◎潮騒
◎岬にての物語 ◎重臣たちの昭和史
◎日本の未来 ◎叱り上手 ◎ふたりっ子の時代 ◎土の器
◎暁の寺 ◎日本の父へ ◎風神の門
◎大河の一滴 ◎季節の断想 ◎独り暮らし

道

私の好きな詩に、次のような詩がある。

「自分には自分に与えられた道がある。広い時もある。狭い時もある。思案にあまる時もある。しかし、心を定め希望をもって歩むならば必ず道はひらけてくる。深い喜びもそこから生まれてくる。」

若い頃、私に与えられた道は、教師という道であった。数多くの子どもたちを受け持ち、精いっぱい頑張った。今は主婦の道をこつこつと歩んでいる。

これまでに私には忘れられない狭い道、下り道があった。それは三才にして肺炎をこじらせて息子を亡くしたことである。亡くなった息子はちょうど可愛い盛りで、親がいうのもおかしいが賢い子どもであった。亡くなって三十年もたっているが、いまだに忘れられ

ない。

私は、俸給とりの家に生まれ、農家に嫁ぎ、それなりに苦労もした。しかし可愛い子どもたちに恵まれ幸福だったが、この長男息子を亡くして本当に悩んだ。共働きをしていた為に子どもへの細かな配慮が足りなかったのではなからうかと深く後悔し、教師を辞める事を決意した。そして実家の母に相談に行った。その時母は、私にこう言っただけ。「なんで亡くなる前に辞めなかつたの。亡くしてから辞めても、息子は返って来ないし、百姓の出来ないお前には教師の道の方が、残された子どものためにやるんでないの。」と。

私にとって悲しい悲しい人生の下り坂であった。どん底に落ちた気が持った。親しい友は、「性格まで変わったようね。」といった位だった。

この詩のように思案にあまった時、母に諭され心を定め主人のあ



たたかい援助もあってやっと歩み始めた。

今は退職して十年目に入った。主婦業も農家の仕事も一応、へたながらも覚えて、与えられた道を歩んでいる。

去年は五十肩になり、あゝ老化がはじまったのかとがっかりもしているが、二人の孫の成長が楽しみで、せつせと宅急便でいろいろなものを送って喜ばれている。

「おばあちゃん」とまわらぬ口調で呼ぶ元気な声を聞くと疲れもふっとんでしまうこの頃である。

人にはそれぞれの道がある、自分に与えられた道を精いっぱい助けあい励ましあって歩む時、自ら楽しい道がひらけてくるのではないでしょうか。

大川原一区 志賀栄子



長寿と健康

夫沢一区 根本 馨

昨年の七月二十六日厚生省発表に依れば昭和五十五年度日本の平均寿命は、男七十三・三才、女七十八・八三で世界第二位、世界の第一位アイスランドで男七十三・四才で女は七十九・三才で第三位は、男スウェーデン、女はノルウェー、第四位は男ノルウェー、女はスウェーデン、第五位は男女共、

選暦を越した初老の私が、五十年前に過ごした懐しい大野小学校時代を懐古して、こゝにいかがましくペンをとりました。

私が一年生に入學したその年の十二月大正天皇がおなくなりになり、しばらく喪章を胸につけて通學したことを思い出されます。

私の父は教員として大野小学校に十年という年月を御世話になつていましたので、私達兄弟も大野の地がなつかしい第二のふるさとなつたのでした。殊に私は、一年から六年まで小学生の時代をすごしたせい、他の兄弟より印象が強いのかも知れません。

住いが山神前にあつたので学校には三軒位あつたでしょうが三年生の頃、夜の森公園まで徒歩で遠足に行ったり、全校生徒

考えられる。是を思うと温暖な氣候だけが長寿に関連されるとは思われぬ。私は、長寿の二分の一が素質で残りの二分の一が環境でその〇・七倍は食生活であると考えていた。所が数日前セロイカ病院の医師の話で現在は素質や環境の影響は少なくなつて長寿の要因は実に揺籃から墓場迄に至る食生活だといわれた。昭和四十五年大野病院の医師先生に脳卒中の予防について第一に食塩を一日十グラム以下、次に低カロリー、高タン

で日がくれ山に登山したり、秋は又上岡、富岡、熊町、大野と四校の聯合大運動会のためしみなど一ぱいでした。

殊に昭和の初期の頃でしたから車などほとんど見られない道路を我が物顔に歩きながらお手玉遊びに興じたり、ある時はたんぼの土



小学の思い出

川内村 井出 とし子

手の日だまりに集まってオハジキの教あてをしたり、道路の近くの小麦畑に入って、麦の穂を二ツ三ツ頂きそれをかみつぶして小川の水で洗い手製のガムを作つてよこんだり、三軒の道を一時間以上もかけて帰宅し、待ちかねていた母にお叱りを受けたことが、つい先頃の様な錯覚を感じてなりません。

パクの食事をなす事と教えられた。厚生省調査に依れば、昭和五十五年度の日本の一日一人当りの食塩摂取量平均十三グラムで所要より尚三グラム多いが東北地区は十五・八グラム次は北関東で十五・四グラム、最低が大阪、京都附近の十・九グラムだといふ。食塩の食品群別構成を見ると東北地方では醤油四・二グラム、つけもの二・八グラム、味噌二・七グラム、食塩一・七グラムその他である。次に低カロリーの食事とは酒類、糖

ん。あの頃の年代が今丁度孫の年になってしまいました。孫達の日常生活は、毎日が勉強に追われて自然の中で遊ぶことが少なくなり遊び道具といえは殆ど高価な既成のものばかりという現在の生活が果してほんとうの幸なことなのでしょうかと、考えさせられてなりません。

ません。私の父は八十四才の高令になりましたが、健康体で未だ鏝鏝として晴耕雨読の生活をすごしております。父も又私以上に大野小学校在職時代をなつかしんで折にふれ想い出話をしております。

殊に当時の教え子の方々が、時折遠いこの地まで訪ねて来て下さり、老父をよろこばせて下さいます。

編集後記

この館報一九九号が読者の皆さんの手もとに届くころは花見の音が聞かれると思う。ホテルニュージャパンの大火、日航機の墜落で大騒ぎをした二月、みんなの胸より消え去ろうとしている大惨事の恐しさ、この防止策をもう一度みんな考えてみたい。

◎昭和五十六年度は、町民の皆様から、たくさん原稿をお寄せいただき、豊富な内容で編集できましたこと厚く御礼申し上げます。

◎今年度も引き続き紙面の刷新を図りながら、町民の館報として発行して参りますので、さらにご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

- 館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度。
- ① 主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。
- ② 政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものでないこと。

（筆者は旧姓石井で、父は敦七先生弟に富岡一中校長石井六郎、幼少の頃栗中教諭、山神に住まれ懐しい思い出いっぱい書いて下さいました。）